

地方自治体の環境イベントで実施するこども服の譲渡会
(新たな官民連携プランの構築)

事業報告書

ゼンドラ株式会社

2024年12月

1. 対象地域の概要

【神奈川県藤沢市の人口動態】

2023年10月1日時点で推計人口は44万3986人で、前年同時期と比べて2124人増加しています。2022年の1年間の「自然増減」は1,335人の減少でしたが、「社会増減」は3,459人の増加で、自然減の落ち込みを上回る大幅な社会増によって人口が増加しました。2023年（1月～12月）における高齢化率（65歳以上人口の比率）は24.52%。藤沢市の子育て世帯対象者29,353世帯（112,237人）・12歳未満人口43,747人（2024年4月1日現在、住民基本台帳による）

【藤沢市の概略】

藤沢市は、「湘南の海」、「緑の豊かさ」、「温暖な気候」、「東京から50km圏」といった恵まれた環境に支えられ、住宅・産業・自然環境等のバランスのよいまちとして発展を続けている。1940年（昭和15年）10月1日に市政制定、現在は人口44万人を超える都市で交通アクセスのよい都市というのが特徴。

鉄道交通について市内に6つの路線、21もの駅があり、バス網についても、主に藤沢駅、辻堂駅、湘南台駅、長後駅を起点として発達。南部地域、西北部地域などで、鉄道やバスのサービス圏域から外れる地域もあるが、駅を中心にまちが形成され、公共交通でつなぐ都市構造となっている。

観光地としては、江の島や湘南海岸などが全国区でつとに有名であり「アートのスペース」「ふじさわ宿交流館」「藤澤浮世絵館」など、文化・芸術施設の整備が近年進められている。また、13地区ごとに市民センター・公民館が置かれ、きめ細やかな行政サービス・地域づくりが進められている点は重要です。

2. 事業の目的

クリーニング店でのこども服の回収拠点構築

街中にあるクリーニング店を有効活用し、こども服の回収実施による来店機会の構築・創出としたい。クリーニング店の持つ洗濯機能も有効活用し、清潔な衣服リユースを実現して他チャンネルとの差別化を図りたい。

リユースを前提とした行政の庁舎・サービス拠点・保育園でのこども服の回収実施

リサイクル（マテリアル）を前提とした回収は広く実施されているが、リユースを前提とした行政窓口での服の回収を実施し、課題を抽出して他の自治体への行動変容を期待したい。

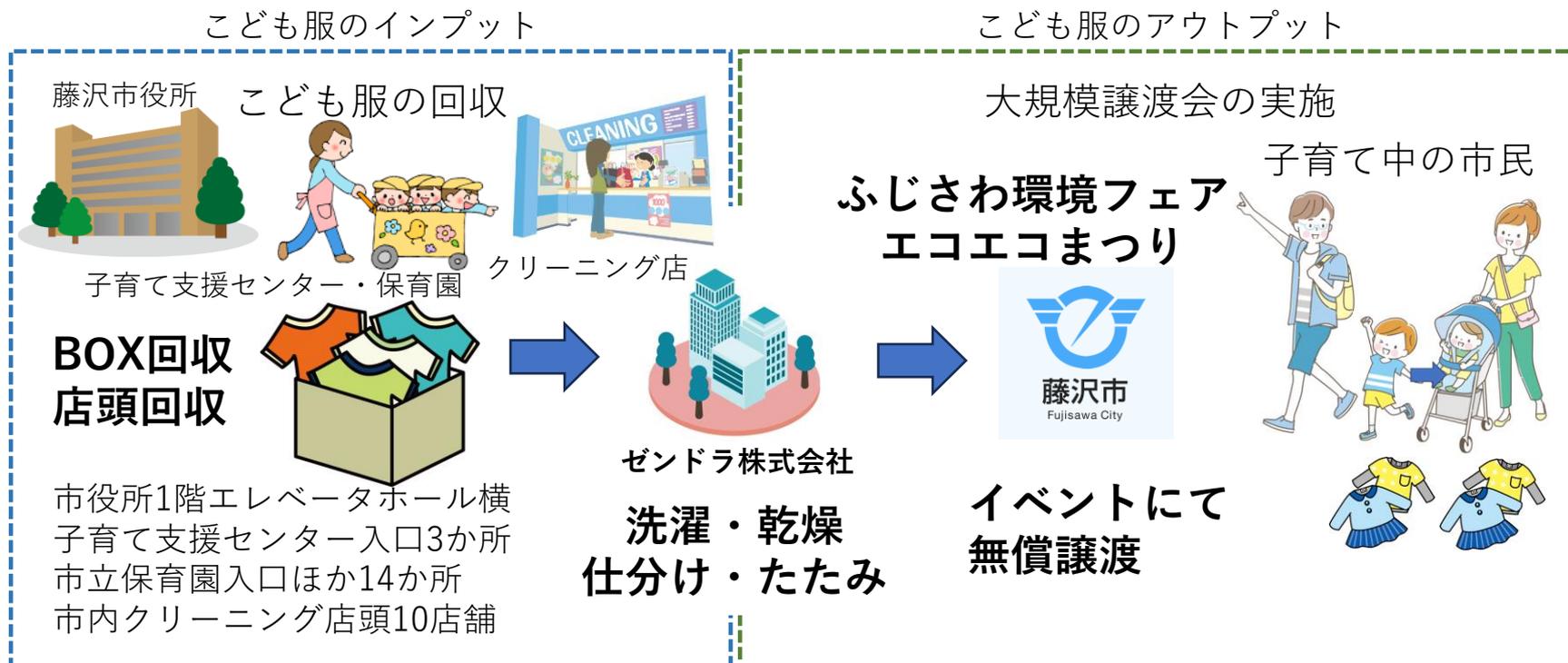
リユース品の洗濯処理実施の効果検証

クリーニング店と連携することのメリットとした、リユース品の衛生管理の向上が期待できるが、コストがかかることで実施に対しては不透明だが、クリーニング店側の協力を得られるのか？それ以外で洗濯した場合のコストについても計算したい。

行政の環境イベントでのこども服の譲渡会の実施可能性

回収から譲渡までのイベント実施全体にかかるコストを計算し、他の自治体にも横展開できるように課題抽出からその解決策の模索までひとつのモデル構築を構築したい。

3. 事業の内容



対象およびエリア

藤沢市内のクリーニング店顧客 10,000世帯

藤沢市の子育て世帯 29,353世帯 (112,237人)

3. 事業の内容

クリーニング店でのこども服の回収

●10店舗にて実施中（2024年10月）（目標20店）

計画では20店舗の予定だったが、実施は10店舗となった。回収協力得られなかった理由は「人員不足（スタッフに負荷かかり辞められては困る）」「手間」「古着を回収しても儲からない」など。SDGs的な取り組み実施によるクリーニング事業への効果について説明不足で、事前の関係構築できていなかったところはほぼ断られた。関係性構築できているクリーニング企業（2社、元々弊社新聞読者なのでメリットを十分に理解いただけ2つ返事でOKとなった）

●クリーニング店顧客への情報発信 2000世帯（目標10000世帯）

こども服の回収周知は顧客1店舗あたり約200世帯×10店舗＝2000世帯を対象となった。1店舗で日常的に来店される顧客数は200程度とのこと。重複を含めても200枚あれば十分とのこと、チラシ配布枚数も同様となりました。顧客数の見込みが曖昧でありました。

行政の庁舎・サービス拠点・保育園でのこども服の回収

●藤沢市でのこども服の回収 19拠点（9月10日～10月10日）（目標20拠点）

・藤沢市本庁舎1階エレベーター前（回収BOX設置） ・子育て支援センター（3か所） ・市立保育園（15か所）
の実施が決まり、想定以上の協力を得ることができた。庁内他部署との連携が肝要であり、子育て企画課の協力体制を構築できたことが大きいと考えます。（目標250kg）

3. 事業の内容

回収した子ども服の洗濯・仕分け作業

●クリーニング店での回収分（2024年10月下旬 洗濯後で納品）

クリーニング店側の協力を得ることができ、回収された子ども服はクリーニング工場に運ばれて洗濯・乾燥処理が施され弊社へ運ばれる。10月下旬実施。

●藤沢市で回収分

弊社コインランドリーにて洗濯作業実施（10月下旬実施）

行政イベント（ふじさわ環境フェアEC02（エコエコ）まつり）での無償譲渡実施と譲渡量（枚数）および経済効果の算出

2023年の来場者実績 約2000名。今後実施予定です（11月9日） 目標譲渡枚数3000枚

譲渡会イベント実施会場が想定より狭く（確保できず）、一日3000枚の譲渡は難しいかもしれない状況です。

次年度以降の実現可能性および他の自治体への訴求

藤沢市における次年度以降の実施については、まずは今回の結果を踏まえてから。次年度予算は計上していないため実現ないと報告を受けています。令和8年度実施の予算計上を来年するかどうかと話を聞いています。市民の方の強いニーズを感じたので、本来ならば来年度も実現したい。（民間企業と違い、予算確保が課題）

3. 事業の内容

事業	こども服の回収と回収したこども服の仕分け・たたみ作業
----	----------------------------

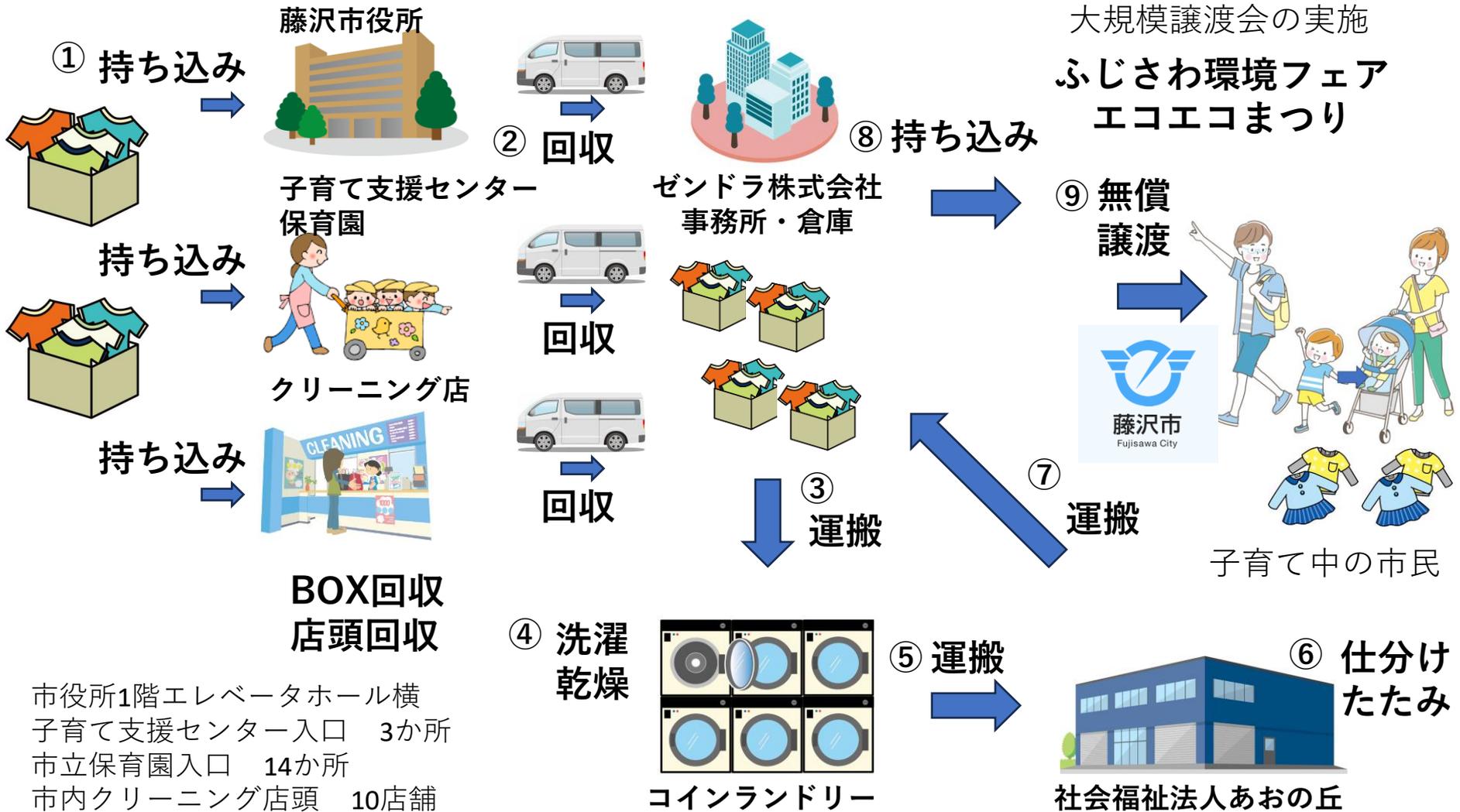
取組	実施内容	取組対象	実施時期
①クリーニング店でのこども服の回収	クリーニング店でこども服の店頭回収を実施。回収後の服はクリーニング店で洗浄できればお願いする	クリーニング店顧客 2000世帯	2024年10月中
②行政庁舎やサービス拠点でのこども服の回収	市役所本庁舎・子育て支援センター・保育園でのこども服の回収	藤沢市民（子育て世帯） 29,353世帯 (112,237人)	9月10日～10月10日
③回収したこども服の洗濯および仕分け作業	回収した服を一度洗濯し、たたみ作業は障がい者の就労支援につなげる	就労継続支援B型施設の利用者にて	仕分け：9月下旬から10月中旬、洗濯：10月下旬に実施。

3. 事業の内容

事業	こども服の譲渡会の実施と他のエリアへの横展開の展望
----	---------------------------

取組	実施内容	取組対象	実施時期
④行政イベントにてこども服の譲渡会を実施する	行政主催のイベントにてこども服の譲渡会を実施する。ふじさわ環境フェアエコエコまつり。	藤沢市民（子育て世帯）29,353世帯（112,237人）	2024年11月9日
⑤次年度以降・他の自治体への訴求	藤沢市における次年度以降の実施可能性を探り、また、他の自治体への訴求のためエコエコまつりへの視察案内を実施する	首都圏（一都三県）の全市区町村の資源環境部局・子育て部局へ視察DMを発送する	10月中旬

4. 事業の実施体制



→ こども服の流れ

4. 事業の実施体制

主体者	役割	調整項目
藤沢市役所 環境総務課	庁舎でのこども服の回収および関係機関との調整。エコエコまつりの実施母体。	廃棄物の取り扱いに関する書面による契約締結しました。 (主に専ら物以外の取り扱いや譲渡できないものの取り扱い等の明文化)
藤沢市立 子育て支援センター 保育園	こども服の回収窓口としての拠点化	回収実施のお願いからのBOX設置、回収時のオペレーション、日時調整
クリーニング店	こども服の回収窓口としての拠点化および、回収されたこども服の洗濯業務	クリーニング窓口での回収実施。BOXでの説明・関係機関との調整。
ゼンドラ株式会社	こども服の回収運搬業務、洗濯業務・仕分け業務・服の管理業務全般・譲渡会運営全般	

藤沢市（環境総務課）との協議内容は多岐にわたりました。

・子育て企画課への事前の打診調整・専ら物以外の取扱い・契約締結までの諸調整・BOX作成の調整・回収状況の把握連絡・回収日時の調整・イベント会場の調整・備品の調整（現在も都度協議継続中）

5. 事業の成果

【こども服の回収BOXの制作】

服の回収ボックスで画像検索すると素材もダンボールからネット・廃プラスチックの再利用等様々ありました。その中で、本モデル事業として以下の点を考慮して独自のものを考えてみました。

- (1) 軽さ・強度
- (2) 運搬性
- (3) 適度なサイズ・容量
- (4) 自立型
- (5) 未使用時の収納性
- (6) 洗浄（洗濯）・衛生・再利用可
- (7) 安価（コスト）
- (8) 制作工数（誰でも作れる）
- (9) 見た目（回収BOXにふさわしいか）



BOX1個あたりの材料／コスト／その他

【部材】

製品名（類似名）・使用量・購入先・単価（税別）・サイズ

【ふくろ】

角形袋自立式（収草袋）・1個・モノタロウ・1,790円・Lサイズ（600*600*750）270リットル

【内張り板】

PT-6060板ダンボール・5枚・ダンボールワン・77円×5枚・600mm×600mm（5mm厚）

【POP】

POP・1枚（ラミネート加工）・自社A4カラープリンター出力・約13円（プリンター3円・ラミネート10円）・A4サイズ

【POP固定具】

ワンタッチホック（アイボリー・13mm）・2個・ダイソー・50円（2組使用・4組で100円）・13mm×0.6mm×13mm

1個あたり合計2,238円（税別）でした

BOX組み立て方動画



5. 事業の成果

【こども服の回収周知活動】

第27回 ふじさわ環境フェア
Ecoまっり2024

2024年(令和6年) 11月9日(土) 藤沢市民会館

10:00~15:00 雨天決行

入場無料

最大150名様にエコバッグプレゼント!

地球にCOOLなそよ風を
 ~今日の気づきが未来を変える~

初 今回のテーマは市民公募で決定!

スタンプラリー抽選会
 環境クイズ王決定戦!
 ワークショップ
 3RSキャラクターショー

協賛: 藤沢市ふじさわ環境フェア実行委員会
 協賛: エイ・エス・エス(株)神奈川株式会社、東洋水産株式会社神奈川支店、株式会社カネダ、ふじさわしげんくみあい、公益財団法人がながわ海洋美化財団、農業レストランいふき、ハナソニック株式会社エレクトリックワークス社、飯倉工業株式会社、湘南生活クラブ生協、三和石炭株式会社、神奈川野生動物保護協会

お問い合わせ: 0466-50-3529

2024年(令和6年) 9/10 NO. 1783

広報 ふじさわ

8月1日現在の推計人口444,108人(男219,004人、女225,104人) 世帯数203,898世帯

藤沢市へのお問い合わせはこちらへ
 藤沢市コンタクトセンター
 ☎0466(25)1111
 午前8時~午後9時(年中無休)

発行日 毎月10日・25日
 編集 藤沢市広報シティプロモーション課
 〒251-8601 朝日町1-1
 ☎0466(25)1111 電 0466(24)5928

市内の公共施設に子ども服の回収ボックスを設置します。集められた服はフリーニングされ、第27回ふじさわ環境フェアと同日開催するこども服の譲渡会を通じて、子育て世帯に届けられます。

回収ボックス設置期間
 9月10日(火)~10月11日(金)

※設置場所により異なります

回収できるもの
 新生児から160cmまでの子ども服(大人のSサイズ相当)

回収できないもの
 傷や汚れのひどい服、学生服、体操着、使用済みの肌着、靴、おもちゃなど

※設置場所など詳細は市

環境総務課
 ☎内線3315
 FAX (50) 8417

子ども服の回収ボックスを設置します



のホームページの環境総務課のページへ

こども服の譲渡会
 とき 11月9日(土)午前10時~午後3時

ところ 市民会館

費用 無料

申し込み 不要

同時開催

こども服の譲渡会<リユースイベント>

場所: 第2展示集会ホール 運営: ゼンドラ株式会社

藤沢市内で回収したサイズアウトして着られなくなったこども服(古着)を必要としている方に無料で差し上げます!

※より多くの方にお渡しするため、枚数制限をさせていただきます

※こども服の回収につきましては市ホームページの環境フェアのページをご確認ください



5. 事業の成果

【こども服の回収周知活動】

2024年(令和6年)
9/10
NO.1783

藤沢市への
お問い合わせはこちらへ
藤沢市コンタクトセンター
☎0466(25)1111
午前9時～午後3時(年中休)

発行日 毎月10日・25日
編集 藤沢市広報シティプロモーション課
〒251-8601 鶴岡1-1
☎0466(25)1111 傳0466(24)5928

環境総務課
☎内線3315
℡(50)8417

子ども服の回収ボックスを設置します

市内の公共施設に子ども服の回収ボックスを設置します。集められた服はクリーニングされ、第27回ふじさわ環境フェアと同日開催する「こども服の譲渡会」を通じて、子育て世帯に届けられます。

回収ボックス設置期間
9月10日(火)～10月11日(金)
※設置場所により異なります

回収できるもの
新生児から160cmまでの子ども服(大人のSサイズ相当)

回収できないもの
傷や汚れのひどい服、学生服、体操着、使用済みの肌着、靴、おもちゃなど

※設置場所など詳細は市



のホームページの環境総務課のページへ
こども服の譲渡会
とき 11月9日(土)午前10時～午後3時
ところ 市民会館
費用 無料
申し込み 不要

藤沢市からの広報活動

- ・ 広報ふじさわ
- ・ 環境フェアチラシ・ポスター
- ・ LINE配信

第27回 **環境フェア**
Eco-mari 2024

2024年(令和6年) 10:00～15:00 雨天決行
11月9日(土) 藤沢市民会館

入場無料

先着150名様にエコバックプレゼント!

地球にCOOLなそよ風を
～今日の気づきが未来を変える～

初 今回のテーマは市民公募で決定!

スタンプラリー抽選会 OK
環境クイズ王決定戦!
ワークショップ
3歳～キッズクラクラショー

協賛: 藤沢市ふじさわ環境フェア実行委員会
ウエイント(株)神奈川株式会社、東京ガス株式会社神奈川西支店、株式会社ホムテ、本田技研工業(株)環境部、公益財団法人かながわ環境美化財団、環境ネットランティイネ、パナソニック株式会社エレクトロニクス事業部、高倉工業株式会社、湘南生活クラブ生協、三和石産株式会社
特別協力: 野鳥観察推進委員会
藤沢市環境協賛総務課 TEL 0466-50-3529 FAX 0466-50-8417

同時開催

こども服の譲渡会<リユースイベント>

場所: 第2展示集会ホール 運営: ゼンドラ株式会社

藤沢市内で回収したサイズアウトして着られなくなったこども服(古着)を必要としている方に無料で差し上げます!

※より多くの方にお渡しするため、枚数制限をさせていただきます
※こども服の回収につきましては市ホームページの環境フェアのページをご確認ください

12:13

COO...藤沢

11/8(金)

【イベント情報】『こども服の譲渡会』を開催します

9月～10月に実施していた子ども服の回収では、皆様のご協力により、1.8トンを超える服が集まりました!心より感謝申し上げます。今回寄附された服をクリーニングし、必要としている方に無料でお渡しする譲渡会を開催します

■日時
11月9日(土) 10時00分～15時00分

■場所
藤沢市民会館 第2展示集会ホール(第27回ふじさわ環境フェア内)

新生児用から160cmまで、様々な種類が揃っていますので、ぜひお越しください

※より多くの方にお渡しするため、枚数制限をさせていただきます

▼詳細はこちらからご確認ください
<https://fj4.city.fujisawa.kanagawa.jp/events/detail.php?id=193>

【終了】こども服の譲渡会を開催し...
廃棄物の削減及び子育て世帯支援のため、デコ活応援団参画企業であるゼンドラ

16:00

入場無料

こども服の譲渡会

藤沢市鶴岡東8-1
11月9日(土)10:00～15:00

詳しくはこちら!

5. 事業の成果

【こども服の回収周知活動】

クリーニング店からの広報活動

ご家庭で不用になった
**こども服を
回収します**

我が家では使わなくなったけど、捨てるにはもったいない…。
ご家庭で眠っているこども服はありませんか？
ご提供いただいたこども服は、
11月9日(土)ふじさわ環境フェア
Eco2(エコエコ)まつりの
「こども服の譲渡会」へ提供いたします。

回収期間
9月10日(火)
～10月27日(日)

回収方法
ご家庭であらかじめサイズ分けして
ビニール袋等に袋詰めいただき、園
にお持ち込みください。

**回収対象
アイテム** 

**回収対象外
アイテム** 

新生児～160cmのこども服
・洗濯済みのもの
・傷や汚れのないもの

※お持ち込みいただいたものは原則として返却いたしません。

11/9 藤沢市民会館 ぶじさわ環境フェアEco2まつりにて
「こども服の譲渡会」開催決定

このチラシのQRコード 

・回収チラシ

地域で循環
リユースイベント

**こども服の
譲渡会**

参加無料

サイズアウトして着られなくなったこども服(古着)を
必要としている方に無料で差し上げます！
※たくさんの方にお渡ししたいので、枚数制限をさせていただきます

11/9(土) 10:00 → 15:00(予定)
第27回ぶじさわ環境フェア Eco2まつり2024
会場：藤沢市民会館(藤沢市鶴沼東8-1)

こども服の無料回収も行っています
こども服の回収
当日、会場までお持ちください。

回収できるもの
新生児～160cmのこども服
・洗濯済みのもの
・傷や汚れのないもの
※あらかじめサイズごとにビニール袋などに分けてお持ちください。
※お持ち込みいただいたものは原則として返却いたしません。

回収できないもの
汚れのひどいもの、体操着、
下着、靴下、水着、布おむつ、
制服、おもちゃ、靴、バッグ、雑貨

イベント主催：藤沢市・ぶじさわ環境フェア実行委員会 協力：セントラ株式会社・株式会社ネオランドリー(クリーニングネオ21)

【こども服の譲渡会に関するお問い合わせ】セントラ株式会社 TEL.03-6821-6611 〒113-0021 東京都文京区本願寺 6-5-3-7F
(※運営費、令和6年度環境汚染対策助成金のシステム構築に関するモデル実証事業)

・譲渡会開催チラシ & ポスター

地域で循環
リユースイベント

**こども服の
譲渡会**

参加無料

サイズアウトして着られなくなったこども服(古着)を
必要としている方に無料で差し上げます！
※たくさんの方にお渡ししたいので、枚数制限をさせていただきます

11/9(土) 10:00 → 15:00(予定)
第27回ぶじさわ環境フェア Eco2まつり2024
会場：藤沢市民会館(藤沢市鶴沼東8-1)

こども服の無料回収も行っています
こども服の回収
当日、会場までお持ちください。

回収できるもの
新生児～160cmのこども服
・洗濯済みのもの
・傷や汚れのないもの
※あらかじめサイズごとにビニール袋などに分けてお持ちください。
※お持ち込みいただいたものは原則として返却いたしません。

回収できないもの
汚れのひどいもの、体操着、
下着、靴下、水着、布おむつ、
制服、おもちゃ、靴、バッグ、雑貨

イベント主催：藤沢市・ぶじさわ環境フェア実行委員会 協力：セントラ株式会社・株式会社ホームドライ(クリーニングホームドライ)

【こども服の譲渡会に関するお問い合わせ】セントラ株式会社 TEL.03-6821-6611 〒113-0021 東京都文京区本願寺 6-5-3-7F
(※運営費、令和6年度環境汚染対策助成金のシステム構築に関するモデル実証事業)

5. 事業の成果

【こども服の回収】

総合計1914.41kgの回収となり目標値を大幅に超えた。藤沢市としてこども服の回収は初めての実践。市の広報への掲載直後から、市役所本庁舎・子育て支援センター各拠点への衣類の持ち込みが頻繁に行われた。保育園は園から保護者へ個々に周知。サイズ別に丁寧に小分けして袋詰めして持ってきていただけ、460.58kgの回収を記録した。

クリーニング店での回収は13店舗にて実施。両社で223.9kgの回収となった。ネオ21さんが10店舗で118.8kg、ホームドライ様が3店舗で105.1kgとなり、実施企業によりバラツキが出る結果となった。

回収場所	回収量 (kg)	拠点種別 (kg)	
藤沢市役所	709.37	709.37	
湘南台子育て支援センター	149.49	520.56	
六会子育て支援センター	241.83		
辻堂子育て支援センター	129.24		
藤沢保育園	37.76		
浜見保育園	13.3		
鶴沼保育園	29.27		
高山保育園	23		
辻堂保育園	65.74		
湘南台保育園	51.48		
しずやがはら保育園	54.58		
善行保育園	36.11	460.58	
またの保育園	15.4		
小糸保育園	21.2		
明治保育園	11.8		
浜見保育園	9.78		
藤が丘保育園	36.2		
柄沢保育園	17.9		
善行乳幼児保育園	37.06		
クリーニング店 (ネオ21)	118.8		223.9
クリーニング店 (ホームドライ)	105.1		
回収合計	1914.41		



5. 事業の成果

回収後の衣類の保管場所

- ・ 市役所本庁舎 = 環境総務課フロア内バックヤード
- ・ 子育て支援センター = バックヤードが無くBOX内のみ
- ・ 保育園 = バックヤード（スペースに余裕あり）
- ・ クリーニング店 = 店舗BOX内が溜まれば都度工場へ搬送

回収拠点	保管場所	弊社の回収頻度
市役所本庁舎	環境総務課フロア内バックヤード	週2回ペース
子育て支援センター	保管場所なし（BOX内のみ）	週1回ペース
保育園	施設内バックヤード	月1～2回ペース
クリーニング店	BOXが溜まり次第工場へ搬送	1回
		
社会福祉法人あおの丘	作業場2階ストックスペース	3回（搬入・回収）
ゼンドラ株式会社	事務所および倉庫2か所	—

5. 事業の成果

【回収した子ども服の仕分け・洗濯作業】

回収した子ども服を社会福祉法人あおの丘（富山県入善町）にて仕分け・たたみ作業を実施
その後、弊社運営のコインランドリーにて洗濯・乾燥処理を行いました。



5. 事業の成果

【こども服の譲渡会実施】

ふじさわ環境フェアECO2まつりにてこども服の譲渡会を実施いたしました。10時の開場前に入り口には行列ができ、スタート直後より会場が満員状態となりました。藤沢市側からの要請で、当日は枚数制限なく持ち帰ることができるイベントとなりました。十分な量の衣服を持ち込みましたが、午後3時の終了間際には衣類も少なくなりました。

→ スタート前に開場を待つ長蛇の列ができました



5. 事業の成果

項目	目標	実績	達成度
藤沢市回収拠点数	20	19	95%
藤沢市での回収量 (kg)	250	1690.51	676.2%
クリーニング店回収拠点数	20	10	50%
クリーニング店での回収量 (kg)	250	223.9	89.56%
クリーニング店からの情報発信数 (チラシ枚数)	10000	2000	20%
衣類譲渡枚数	3000	2341	78.03%
リユース率 (%)	66.6	18.24	↑ 今後上昇
ごみの減量効果 (回収表面効果)	562.5	1914.41	340.3%
ごみの減量効果 (譲渡実質効果)	375	349.1	93.09%
CO2削減量 (譲渡分)	31.408t-CO2	24.509t-CO2	78.03%
CO2削減量 (回収分焼却計算)	0.826t-CO2	2.812t-CO2	340.43%

5. 事業の成果

CO2の削減量は、譲渡された服と同量の衣類が新たに製造される場合に発生するCO2量 回収された服と同量の衣類が廃棄される場合に発生するCO2量の合計値を下記の通り算出しています。

新規衣服の製造に係るCO2の削減量(t-CO2)

新製品の製造に係るCO2排出量*125.5(kg/着) × こども服の重量減算率57.6% (こども服1枚の重量0.144kg *2 ÷ 大人服1枚の重量0.250kg*3 × 100) × リユース服の着用割合*4 (71.28%) × リユースした衣服量(着)

25.5kg-CO2 × 0.576 × 0.7128 × 2341着=24,509(kg-CO2)=24.509(t-CO2)

使用済衣服の廃棄に係るCO2の削減量(t-CO2)

合成繊維割合*563.6% × 排出係数*42.31(tCO2/t) × 回収量(t)

0.636 × 2.31 (tCO2/t) × 1.91441(t)=2.812(t-CO2)

項目	目標	実績	達成度
CO2削減量（譲渡分）（71.28%）	31.408 (t-CO2)	24.509 (t-CO2)	78.03%
CO2削減量（回収分焼却計算）	0.826 (t-CO2)	2.812 (t-CO2)	340.43%
合計	32.234 (t-CO2)	27.321 (t-CO2)	84.75%

※1 新製品の製造にかかるCO2発生量 25.5kg-CO2/枚

出典：[令和2年度ファッションと環境に関する調査業務-「ファッションと環境」調査結果（環境省）](#)

P16 服1着生産するにあたり排出されるCO2は25.5kgと推計

※2 本譲渡会持ち込み重量400.8kg ÷ 2775枚 = 0.144kg

※3 環境省ホームページ「生産時における産業全体の環境負荷」の図表より

https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/

※4 本モデル事業アンケートによる、新品と比較した使用済み衣類の着用頻度減算分 71.28%

※5 「合成繊維割合63.6%」出典は・環境省資料

<https://www.env.go.jp/earth/ondanka/ghg-mrv/committee/haikibutu.pdf>

○算定方法・排出係数一覧 > 算定方法及び排出係数一覧 (P.5)

<https://ghg-santeikohyo.env.go.jp/calc> https://ghg-santeikohyo.env.go.jp/files/calc/itiran_2023_rev4.pdf

5. 事業の成果

回収衣類	1914.41	kg
コインランドリー洗濯衣類	257.19	Kg（予算可能内のみ洗濯）
イベント持ち込み衣類	400.8	kg
	2,775	枚
イベント持ち帰り衣類	51.7	kg
	434	枚
実譲渡衣類（量）	349.1	kg
実譲渡衣類（枚数）	2,341	枚
アンケート回答者分・譲渡衣類（量）	187.746	kg（アンケートより）
アンケート回答者分・譲渡衣類（枚数）	1,373	枚（アンケートより）
アンケート未回答者分	161.354	kg
アンケート未回答者分	968	枚
11/9時点の在庫衣類	1565.31	kg
11/9時点のリユース率	18.24	%
実質福祉経済効果	591,923	円
アンケート回答者分・イベント来場世帯数	159	世帯（来場者人数413名）
アンケート回答者分・福祉経済効果	347,165	円
アンケート回答者分・一世帯あたりの経済効果	2,183	円
アンケート回答者分・一枚当たりの経済効果	252.85	円

5. 事業の成果（福祉経済効果の算出方法）

来場者 アンケート

衣類持ち帰り時にアンケートを実施
以下の設問をより回答を収集しました。（アンケート回答率58.65%）

Q：今回お持ち帰りいただく服の合計の価値（金額）をお決めください。
（例：同様の服を古着屋で購入するとしたら…いくら必要でしょうか？）

実質福祉経済効果 591,923円

アンケート回答者分・持ち帰り枚数1,373枚・福祉経済効果 347,165円
（アンケート回答結果の合計額）

アンケート回答者分・一枚当たりの福祉経済効果額
計算式：347,165円÷譲渡枚数1,337枚 = 252.85円（平均）

アンケート未回答者分・持ち帰り枚数968枚・福祉経済効果（推定） 244,758円
計算式：（推定単価）252.65円×譲渡枚数968枚 = 244,758円

実質の福祉経済効果

アンケート回答者分347,165円 + 未回答者分244,758円 = **591,923円**

5. 事業の成果 定性的評価（藤沢市関係での回収）

< 藤沢市 >

・ 環境総務課担当者

予想以上の反響にびっくりしたというコメントをいただきました。期間中、回収の勢いが止まることなく続いた状況に驚いていました。回収場所の設定および周知には、環境総務課以外の関係部署との連携は欠かすことができません。子育て企画課より保育園や支援センターとの調整に尽力いただき、部署横断的な取り組みで素晴らしい成果を上げることができました。回収期間中、環境総務課員によるBOX内の確認業務は大変だったようです（一日に3～5回ほど、1階設置場所へ出向き、都度回収してバックヤードに運ばれました）

・ 子育て支援センター担当者

こども服の回収はニーズがありとても良い取り組みだと思います。思い出があるので捨てられない方もたくさん。リユースで誰かに着てもらえるのなら...と回収に出すことを決意された方も。家の中がすっきりして助かりました！と喜びの声が多数ありました。また、以前こどもを通わせていた保護者とこどもが回収に持参。「懐かしいわ～」と声を上げる様子に担当者も笑みを浮かべていた。担当者は「子育て世帯の方々しか来られない場所。私たちの取り組みが広く可視化されたのがとても嬉しかった」とコメントをいただきました。その方は、こども服の譲渡会に来場されました。

・ 保育園

園により回収量にバラツキがありましたが、どの保育園でも園長先生が積極的（前のめり）に協力いただきました。

保護者への周知方法は登園入り口に貼られたポスターが中心。呼び鈴を押して開錠してもらうので若干の待機時間があり、呼び鈴横への掲示で保護者全員に周知ができる。さらに、スタッフの一声があると回収も増える気がします。

保護者のこども服の譲渡会開催に対する反応は高かったと感じます。



5. 事業の成果 定性的評価（クリーニング店での回収）

<クリーニング店への打診>

クリーニング店に打診するも、個人経営店舗からは「手間」「置き場がない」などの理由で断られたのが残念だった。

結果的に、回収実施に許諾いただいたクリーニング店は地域内の中堅企業。ドミナント的に展開しており、店舗も多く地域へのかかわりも高い。回収された品物も「クリーニング店で回収して譲渡するのなら、洗った方が良くクリーニング店の存在価値も示すことができる」と洗濯・乾燥を快く受けていただいた。

取り組まれた2社（10店舗）の顧客からは「常時回収してもらえるの？（もらえると助かる）」という意見を多くもらい、回収ニーズの高さをクリーニング店も認識した。



【洗濯することへの譲渡事業へのメリット】

- ・譲渡会を実践する側として、洗濯したものを譲渡することで顧客満足が高まり、コストをかけても得られるメリットの方が大きい。

- ・本事業では遠方の自社コインランドリーにて洗濯したが、弊社倉庫内に業務用洗濯機・乾燥機の設備導入を予定。（シミ抜き機・包装機は導入済み）他地域ではクリーニング店との協業も考えられる。

- ・洗濯行為を行うことでリユース率を高められ、商品価値が高まればリユース販売の可能性も広がってくる。（一般リユース店には無い強みが見られる）

【考察・クリーニング店での回収は有効と考える】

- ・1店舗あたり20kgの量は一定評価できる。周知が浸透すれば衣替え期100kg/月の回収も難しくはない。

- ・「常時回収を望む消費者が多い」ことから、回収拠点の構築は店側にもメリットはあると感じる。

- ・一方で、クリーニング店としてのメリットが表現しづらい。地域貢献では経営者の決断まで至らない。メリットをより可視化できれば状況は変わる。

- ・誰でもできないことである洗うこと（洗えること）の強みを発揮したい。譲渡されるこども服の品質が格段に良くなるのは間違いない。（仕分け作業等で大量に触っていてもベタベタしない）

- ・ただし、全品クリーニングして譲渡することは現状では難しいと感じる。洗濯原価より仕分け・たたみ等の人件費の面での負担が大きい。人的コスト以上のメリットが確立できれば、洗濯原価は低いので広がる可能性はある。

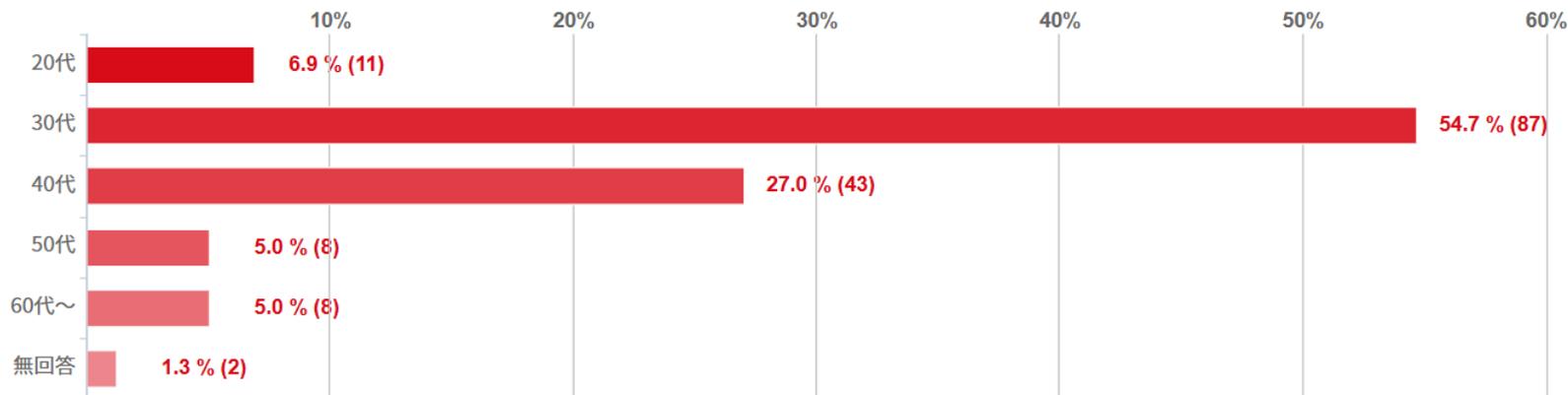
5. 事業の成果 定性的評価（回収拠点別の考察）

<回収拠点別のこども服の品質について>

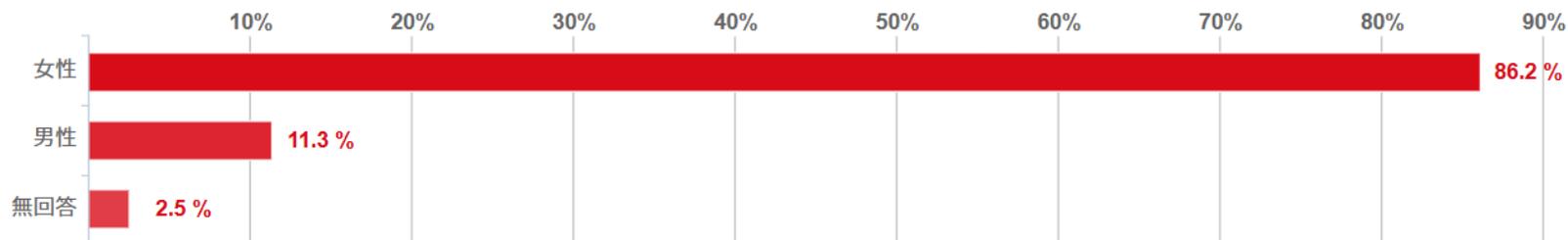
- ・回収されたこども服の品質について
無人放置でのBOX < 有人施設でのBOX投入 < 対面引き取り この順で回収された品物の質の高さ（着古感・汚れ・ニオイ・破れ・毛玉など）を感じることができました。
- ・回収時に人の手を介することで、リユースにふさわしくない品物が避けられる一定のフィルタリングがかかったと考えます。この点では、クリーニング店での回収は最も品質が高かったです。
- ・回収時のお願いとして、「サイズ別の小分け」や「洗濯」のお願いを実施しました。ルールを守っての持ち込みは保育園で順守できほぼ完璧でした。（もしかしたら、仕分けされていないものは保育園の職員の手で行われていたのかもしれませんが）利用者と毎日接点があり、日ごろからの顔見知りなのでルール順守が守られた形。
- ・子育て支援センターでの回収は、量的にも多く質の面でも良く、バランスが良かったです。サイズ別け率は50%程度でした。
- ・市役所本庁舎での回収は圧倒的な量が集まった。反面、一部でリユースに適さないものも散見され、人の目が効かない点はデメリットとなりうる。サイズ別け率は20~30%ほど。周知を工夫すればサイズ別け率も高まると思われます。わかりやすく伝える工夫が必要でした。
- ・クリーニング店での回収は、事業者毎に取り組み方が変わり周知にも時間がかかるところがデメリット。動き出すと春秋の衣替え期には大きな回収が期待できると考えます。
- ・クリーニング店で回収されたこども服は、工場で洗濯作業を施したのでとても衛生的。作業時に手に感じるベタベタ感などもまったくなく心地よかったです。
- ・リユースに適さないこども服も、洗濯・乾燥工程を経ると見違えるほど品質が向上することは確認できました。汚れの大半が水溶性汚れであり、40~50°Cの洗濯で汚れ落ちが良くなり、持ち帰り許容範囲までは手間をかけずに汚れ落としができることもわかった。黄ばみ（黄変色）は漂白剤で黄ばみを取ると新生児の肌着（綿100%製品）の品質が格段に向上しました。

5. 事業の成果 定性的評価（来場者アンケート）

<こども服の譲渡会・来場者の年齢構成>



<回答者性別>

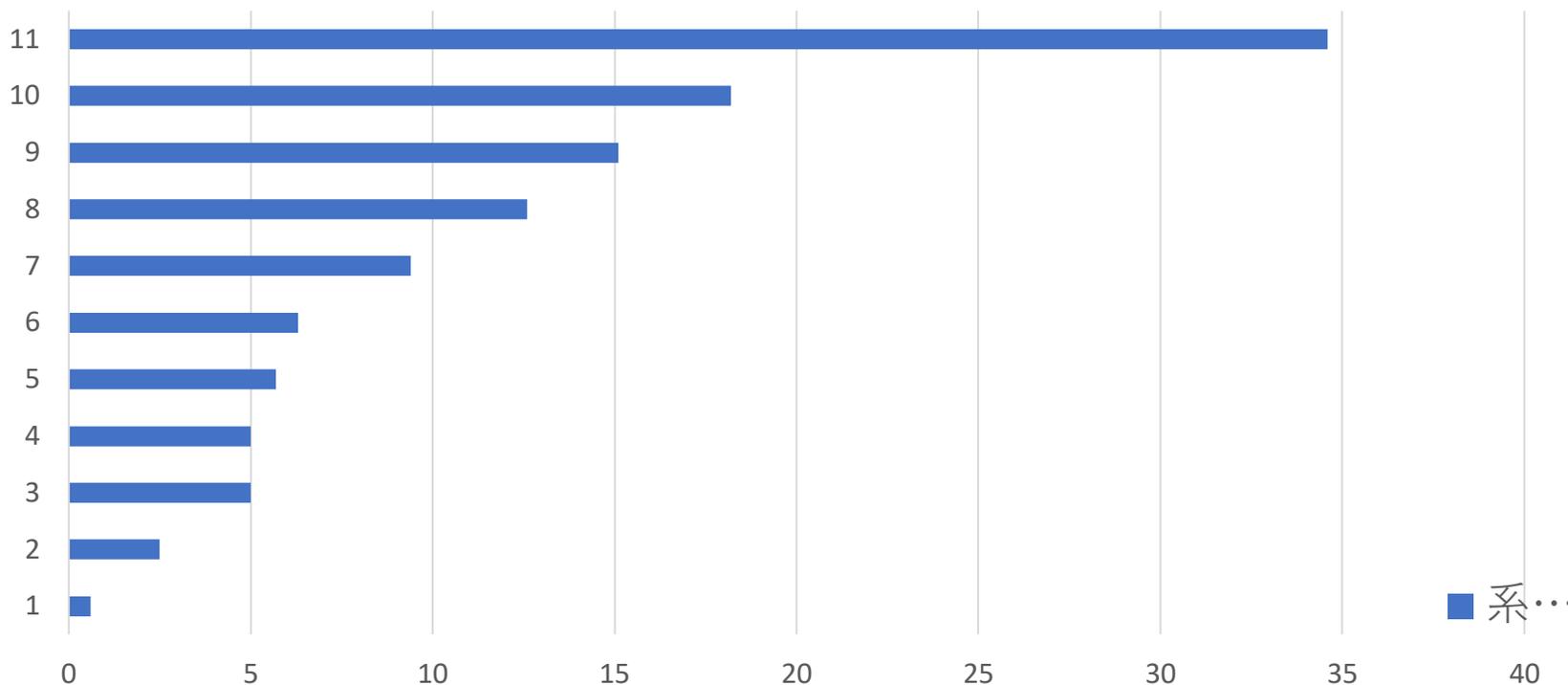


<世帯の構成>

	1	2	3	4	5	それ以上	無回答
おとな (人)	19 11.9%	126 79.2%	7 4.4%	3 1.9%	0 0.0%	1 0.6%	3 1.9%
こども (人)	72 45.3%	51 32.1%	19 11.9%	2 1.3%	1 0.6%	0 0.0%	14 8.8%

5. 事業の成果 定性的評価（来場者アンケート）

<イベントへの来場のきっかけ...周知>



<今後も「こども服の回収&譲渡会」を開催してほしいと思いますか？>

開催してほしい	151件 (94.96%)
開催してほしくない	1件 (0.62%)
無記入	7件 (4.40%)

<9月より市内で実施していた「こども服の回収」を利用しましたか？>

利用した	24 (15.09%)
利用していない	129 (81.13%)
無記入	6 (3.77%)

5. 事業の成果 定量的評価（他のイベント参考資料）

一人当たりのこども服の回収量

こども服の譲渡会 イベント当日回収量						
地域	—	—	—	—	—	合計
開場属性	—	—	—	—	—	
当日回収量(kg)	201.84	214.59	47.83	83.58	85.19	633.03
持ち込み人数 (人)	86	60	30	45	34	255
一人当たり Ave(kg)	2.347	3.577	1.594	1.857	2.506	2.482

こども服の回収時の異物の混入具合

市役所本庁舎BOX = 生理用品（未使用）1点 ・ 靴数点
 子育て支援センター = なし
 保育園 = なし
 クリーニング店 = なし

市役所本庁舎内のBOXに

- ・生理用品 および 靴が数点入っていた時が別日でありました（おそらく、投入者は1名ずつ計2名）。
 想定より少なく、回収量全体から考えるとほぼゼロと言ってもよいレベルかと思われます。

5. 事業の成果 定量的評価

回収された子ども服の分類（譲渡会持ち込み400.8kg分）①

9月30日(月)入り 藤沢分① 10/15搬出		カバーオール 肌着		トップス、アウター (上下セット、ワン ピース)	ボトムス	小物（衣類以外） (水着、浴衣、タイ、靴 下、ミトン、涎掛け、 レッグウォーマー、帽子、手 袋、マフラー、浴衣、 カバーパンツなど)	B級 (キズ物、下着) ※簡単に2ツ折にする
		ロンパース	肌着				
新生児(~ 50cmまで) ※生後3カ月 まで (2ツ折)	肌着 ロンパース(白を基調 とした肌着系)						
ベビー服 (2ツ折)	60cm (3-6か月)						
	70cm (6-12か月)			12	3		
	80cm (12-18か 月)			124	93		
	90cm (18-24か 月)			134	63		
子ども服	95cm (2歳)			62	28	101	82
	100cm (2-3歳)			154	65		
	110cm (3-4歳)			162	83		
	120cm (4-5歳)			170	63		
	130cm (5-6歳)			115	71		
	140cm (7-8歳)			109	44		
	150cm (9-10歳)			111	51		
160cm (11-12歳)			97	44			
大人服 (170cm以上も含む)			132	95			
計	0	0	1,382	703	101	82	
合計					2,268		

5. 事業の成果 定量的評価

回収された子ども服の分類（譲渡会持ち込み400.8kg分）②

9月30日(月)入り 藤沢分② 10/31 搬出		カバーオール 肌着		トップス、アウター (上下セット、ワン ピース)	ボトムス	小物（衣類以外） (水着、浴衣、タイ、靴 下、ミトン、涎掛け、 レッグウォーマー、帽子、手 袋、マフラー、浴衣、 カバーパンツなど)	B級 (キズ物、下着) ※簡単に2ツ折にす る
		ロンパース	肌着				
新生児(～ 50cmまで) ※生後3カ月 まで (2ツ折)	肌着 ロンパース(白を基調 とした肌着系)	139	16				
ベビー服 (2ツ折)	60cm (3-6か月)			1	4		
	70cm (6-12か月)			14	2		
	80cm (12-18か 月)	29		25	15		
	90cm (18-24か 月)	1		42	24		
こども服	95cm (2歳)	1		20	6	6	4
	100cm (2-3歳)			42	12		
	110cm (3-4歳)			82	26		
	120cm (4-5歳)			59	29		
	130cm (5-6歳)			29	15		
	140cm (7-8歳)			13	9		
	150cm (9-10歳)			5	5		
160cm (11-12歳)			7	1			
大人服 (170cm以上も含む)			15	2			
計		170	16	354	150	6	4
合計					700		

5. 事業の成果 定量的評価

リユース服の着用頻度（新品同様衣類との比較）

今回持ち帰られるこども服（古着）の着用頻度は、新品衣類と比較してどの程度でしょうか？（新品で購入した同様の衣類を100とした場合、この古着の着用割合をお教えてください）

No	%	No	%	No	%	No	%	No	%	No	%										
1	50	16	80	31	50	46	50	61	30	76	100	91	106	121	100	136	151	70			
2	25	17		32	100	47	100	62	70	77	100	92	50	107	50	122	100	137	30	152	100
3	50	18	100	33	100	48	60	63	10	78	50	93	80	108	50	123	50	138	50	153	100
4	100	19	70	34	90	49	100	64	70	79	90	94	30	109	100	124	60	139	100	154	80
5	100	20	100	35	100	50	30	65	80	80	100	95	60	110	20	125	100	140	100	155	10
6	30	21	50	36	50	51	90	66	100	81	90	96	80	111	100	126	40	141	100	156	60
7		22	60	37	50	52	50	67	50	82	80	97	80	112		127	100	142	50	157	
8	80	23	95	38	100	53	50	68		83	30	98		113	100	128	70	143	30	158	30
9	100	24	100	39	70	54	60	69	80	84	80	99	20	114	80	129	80	144	65	159	100
10	100	25	30	40	100	55	30	70	50	85	50	100	100	115		130	100	145		AVR	71.28
11	100	26	100	41	80	56	100	71	50	86	60	101	70	116	100	131	20	146	90		
12	100	27	70	42	80	57	80	72	50	87	50	102	80	117	100	132	30	147	50		
13	30	28	50	43	100	58	60	73	50	88		103	90	118	50	133	100	148	60		
14	100	29		44	80	59		74	90	89	50	104	100	119	20	134	50	149	10		
15	100	30	80	45	80	60	100	75	90	90	100	105	90	120	50	135	80	150	80		

無記入含む回答者数 159

平均 71.28%

6. 今後の検討課題

1・【こども服の回収量への体制づくり】

自治体でのこども服の回収は、量も多く保管スペースも少ないため回収頻度が多くなり、回収にかかる人的コスト・工数が当初予定より多くかかりました。

文部科学省「みんなの廃校プロジェクト」など、遊休スペースを活用するなど、一時保管場所の確保等ができる場合、柔軟な対応も可能かと思われます。

2・【アウトプット（譲渡会）の環境】

洋服を並べる譲渡会実施スペースは相当の空間確保が必要です。スタート時の混雑状況は、場合によっては入場制限を設ける必要もありそうです。それくらい、混雑するイベントです。

枚数のカウント・アンケート等、来場者のコントロールが上手くいきませんでした。本来は入口と出口を設け、テープパーテーション等で会場内外を区画する必要がありますが、今回は会場内を仕切ることができず、結果的にアンケートを回答せずに持ち帰られた方が多数おられました。

3・【集客・イベント周知】

保育園や子育て支援センターでの回収や譲渡会への来場周知には、子育て支援部局との連携は必須です。藤沢市ではその部署間連携が円滑に進みました。この連携次第で回収量も来場人数・譲渡量も変わってくると思いますし事業成功への肝だと考えます。メールやSNS等からの発信、保育園等でのチラシ・ポスター周知などが効果的でした。

6. 今後の検討課題

4・【回収拠点と子ども服の質の関係】

無人（人が常駐しない場所）でのBOX回収は、専ら物以外の物品投入リスクを考慮しておく必要があります。地域内の一般廃棄物処理事業者との連携・協力も必要かもしれません。今回は生理用品・靴の数点のみ（市役所本庁舎エレベータ前設置のBOXのみ）でした。

BOX設置するも、基本は対面での受け渡しとなる保育園・子育て支援センター・クリーニング店での回収は、異物混入もゼロでした。サイズ別けの指示も周知され、着用できそうにない子ども服も少なかったです。

5・【洗濯する場合の手順について】

子ども服を洗濯する場合、仕分け前の工程で行うのが一般的だが、今回はあえて仕分け後に実施しました。その理由は、アイテム別に仕分けられた状態の方が、洗濯物に与える影響も少ないためです。肌着やアウターなど極力アイテム別に分けた方が乾燥時間を短くできます（過乾燥を防ぐため）。

6・【回収した衣類の保管場所】

回収が進むにあたりストックスペースも必要となりました（弊社事務所内ではパンクしました）。倉庫を借りた場合の賃料その他がキャッシュアウトしていきます。何らかのキャッシュポイントの構築を同時に考える方が事業の継続性は高まると思います。

7・【人的コスト】

事業にかかる人的・物的コストは当初の予定（概算要求）通りに推移できたが、回収量が多くなったため、その分の仕分けと洗濯の実施ができなかったです。かけたコストに見合う福祉経済効果の獲得ができましたので、他の自治体への横展開も可能であると判断しました。

6. 今後の検討課題

8・【ボランティアの協力】

産官学連携を模索し学生を中心としたボランティアの確保、生涯学習分野でのシルバー人材の協力があればよりスムーズに事業を進められると思いますし弊社では東洋学園大学との連携で実践済みです。ボランティアには、回収・仕分け・周知・当日運営の作業に協力いただけると効果的です。

9・【広報・周知の方法】

回収も譲渡会イベントへの参加も、市役所広報からの周知が極めて効果的でした。クリーニング店での周知には少々時間がかかります（そもそも利用客に子育て世代の対象顧客が少ない）。

10・【リユース／リサイクルへの阻害要因・設定しなければよかったルール】

自治体によってダウンジャケット等の羽毛類の取り扱いが曖昧であり、リユース事業者・譲渡会実践者にとっては混乱をきたす要因かと思われます。他の衣類と同様に、専ら物としての扱いで統一してほしいと感じました。

「洗濯して出してください」の周知をより徹底しなければと感じました。思入れがあり箱に詰めて何年も保管されていたものもありました。

譲渡枚数について今回は「無制限（常識の範囲内）」としましたが、一世帯20枚ほどに制限した方が良かったと感じました。早い者勝ちになってしまうのは仕方ない面もありますが、子育て支援の側面を重視して来場者へ公平を期すためにも、一定の枚数制限はかけた方が良いと思います。

午前・午後の2部制として、来場者を事前申し込み（抽選）制にして実施する方法も一考の余地ありと考えます。（実践事例・文京区子ども服頒布会）

7. 事業終了後の展開

(1) 他のエリアへの展開

他の自治体への周知を本報告書作成後からスタートしてまいります。来年度の予算概要は既に決まっておりますので、まずは譲渡会事業を知ってもらうところから。ダイレクトメールやEメール発送を予定しております（2025年1月から2月）

本モデル事業実施中に、新潟県燕市の子育て応援課への提案機会があり12月に実践。さらに、来年度への実施も検討いただいております。

(2) 官民連携の促進

自治体との共催は「東京都文京区」「神奈川県藤沢市」「新潟県燕市」と3例となりました。後援取得での実施は15自治体となりました。藤沢市内では2025年1月に同市内商業施設での実施も決まり、本モデル事業で回収した残りの衣類を配布しリユース率を高めてまいります。

他の自治体との後援・共催連携についてこれまでと同様に進めてまいります。回収のみ・譲渡会実施のみ等、メニューを細分化して自治体ニーズに応えてまいります。

自治体の資源環境窓口での回収ボックスの常設設置に向けて文京区と協議しております。他の自治体との連携も積極的に進めてまいります。

学校・教育機関（教育委員会等）との連携に向けて活動してまいります。

(3) 子育てイベント等への展開

新潟県燕市との実施において、移動児童館などとの連携等、幅広い実践事例を構築してまいります。2025年4月には千葉県市原市の商業施設で2回目となる譲渡会を4月に開催予定なので、市原市の子育て部局との連携強化を図ってまいります。

上記1～3の実施に向けて、今後開催のこども服の譲渡会について環境省からのイベント後援の取得を進めていきたいです。

8. 横展開へのポイント

【他の自治体への実施における課題共有ポイント】

- ・住民の反響と衣類の回収量は、自治体職員の予想をはるかに超える
- ・回収した衣類の保管スペースは相当の確保を
- ・クリーニング店の協力はよりベターであり、事業者負担も大きいため相応のメリットを
- ・環境、子育て、広報などの連携・調整は必要
- ・環境担当者以外の自治体職員は、廃棄物関連法規への認識が薄いため認識の共有が必要
（おもちゃ・ぬいぐるみ・ベビーカー・チャイルドジュニアシートの回収ニーズが高い）
- ・一度実施すると市民からの常時回収拠点ニーズ、定期的な開催ニーズが立ち上がる
（明らかな行動変容が起きる）
- ・回収と譲渡ニーズのタイミングが半年ずれることも考慮する
- ・回収物の有効活用を考えると単発事業でなく複数年にまたがった継続事業の扱いが理想
- ・専ら物の扱いで法令順守が徹底でき、保管・管理面で実施事業者をしっかりと選定

【他の自治体への共有ポイント】

- ・DMやメールでの本モデル事業の結果周知
- ・文京区の本庁舎内に、リユース目的のためのBOX設置検討（区リサイクル清掃課前・17階）
- ・中野区の子育て・環境部局へのアプローチ
- ・新潟県燕市での次年度実施
- ・改めてのデコ活応援団での発表機会

本報告書をご覧くださいまして
誠にありがとうございました

環境問題に向き合い・取り組みながら
福祉経済効果も生まれる
こども服の譲渡会



地域内に素敵な笑顔と善意の連鎖
そして、リユース推進の行動変容が生まれます

ぜひみなさまの地域でも
開催に向けて
ご検討いただければ幸いです

弊社で力になれることがありましたら
どうぞどうぞ遠慮なくご連絡ください

お待ちしております

ゼンドラ株式会社
こども服の譲渡会 担当 関・後藤
電話：03-6821-6611
E-Mail：kodomofuku@zendora.co.jp